

あま市立甚目寺小学校

< 学校紹介 >

甚目寺小学校は、今年で開校142周年を迎える地域で最も伝統のある学校の一つです。校内は緑が豊かで、みんなのいこいの広場である『ビオトープ』や、職員室の前には、つたのグリーンカーテンがあります。学校の東側には甚目寺観音の林が広がっています。そのためか、平地では珍しいタマムシが見られます。これらの豊かな地域の素材を活用して、地域とともに子どもを育てたいと考え、全学年が『ふるさと甚目寺 かかわる つたえる つながる』というテーマで総合学習に取り組んでいます。

また、甚目寺小学校は平成24年からユネスコスクールに加盟しており、ESDの推進についても力を入れています。今年度はアルミ缶集めやペットボトルキャップを集めてワクチンをおくる活動をさらに活性化させるために、各学年のテーマに合わせたペットボトルキャップアートに挑戦しました。これらの取組も含めた各学年の取組は、本校が独自に作成しているESDカレンダーに記されており、これは学年が上がるごとに深まりと広がりあるように体系化されています。このように、甚目寺小学校では、ESDや総合学習で身近な地域の素材を使って学ぶことで、地元への理解が深まり愛着が持てる子を育てると同時に、より良い学校づくり、そして、より良い町づくりを目指しています。

< 各学年の取組の概要 >

1年生は、学校や学校の周りに目を向けた取組を行っています。その1つに、自分たちで育てたアサガオを地域の方に届け、地域の方たちとの交流を深めるというものがあります。

2年生は町の商店街や駅周辺へと活動の範囲を広げた取組を行っています。グループに分かれて商店街のお店へインタビューに行き、商店街について学び交流しています。

3年生は「人にやさしい町づくり」福祉をテーマとして、手話や点字、車いすについて学んだり、地域のデイケアサービスセンターを訪問したりしています。

4年生は、環境にやさしい町づくりというテーマのもと、自分たちでゴーヤを育てたり専門家から環境について学んだりしています。

5年生は、甚目寺の産業について勉強しています。甚目寺は、日本一のはけの生産地なので、このことをより多くの人に知ってもらえるように詳しく調べています。他にも、甚目寺の農業・商業・工業についても取材して学び、学んだことを発表しています。

6年生は、甚目寺の歴史や文化について学んでいます。地元の歴史や文化の知識をさらに深めて、たくさんの人に知ってもらいたいと考え、取材活動を行っています。毎年の夏休みには6つのチームに分かれて取材に行きます。それは、甚目寺観音、萱津神社、ハンセン病、遺跡、街道、甚目寺説教源氏節、の6つです。その取材を通して学んだことや出前授業で学んだこと、自分なりに調べたことをまとめて、11月の総合学習発表会で、保護者や地域の方に向けて発表します。